



ルーテル学院だより

神学校だより

NO.158

NO.85

合併号

2025.3.1

発行 | ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL: 0422-31-4611 FAX: 0422-33-6405
発行人 | 石居 基夫
http://www.luther.ac.jp/

Feature 特集

社会で輝く卒業生



Profile **木田 祥太**
会 社 名 シルバーワン株式会社
役 職 代表取締役
卒 業 年 2008年
卒業時の学部学科 総合人間学部社会福祉学科

Q. 現在のお仕事について教えてください

2016年2月よりシルバーワン株式会社を独立開業し、今年で10年目を迎えます。主に施設入居を考える利用者、ご家族に有料老人ホームをご案内しています。また施設へのレクリエーション調整、任意後見人の受託など、社会福祉士としてソーシャルワークの視点を活かしながら高齢者の生活をトータルサポートできる会社を目指しています。

Q. 福祉に興味をもったきっかけ・会社を立ち上げたきっかけを教えてください

中学生のときに聴覚障害者がヒロインの「君の手がささやいている」というドラマに影響を受け、手話に興味をもったのをきっかけに地域の公民館で手話を習うようになりました。高校生になっても活動を続け、小学生や中学生に手話を指導しながら、自身で台本を書いた手話劇を披露するまでになりました。これらの活動が評価され、調布市より青

シルバーワン株式会社 代表取締役 木田 祥太

少年の模範として表彰していただきました。多感な頃の経験が福祉の大学への進学、仕事に就く原点になったと思います。

また大学時代の夏休みに九州や沖縄をヒッチハイクしながら、様々な高齢者施設を見てまわった経験より、将来は自分の理想の介護施設をつくりたいという夢を持ちました。

Q. ルーテルでの学びは今の仕事にどのように活きていると感じますか

在学中の学びの中で、認知症で帰宅願望がある方に「施設にいるから帰宅できません。」など起きていることにただ返答するのではなく、専門職が「なぜ」という問いをすることが大事であると教わったことが印象に残っています。私が施設の相談員をしていた頃、利用者に「なぜ帰りたいのですか？」と聞くと、「ネコに餌をあげる時間だから帰る。」との返答があり、「ネコは娘さんが餌をあげる」と言っていました。」と伝えると自宅に戻ら

れました。専門職として、その方の根底は何を求めているかを知ろうとすることが、利用者のあらゆる可能性を導き出すことにつながると確信しており、現在も意識をして仕事に取り組んでいます。

Q. 今後のビジョンがあれば教えてください

社会福祉士の仕事は病院や施設で働くのが一般的となっており、どのようなことをしているのかなどまだまだ世間の認知度が低いように感じます。社会福祉士として社会で困難を抱えた方の生活をよりよく、少しでも生きがいにつながる社会の実現のために、現代のICT化を取り入れながら、地域や社会への情報発信や、実際のサービス提供ができる会社運営を目指しています。

サービス紹介



地域介護相談センター
近所のよしみ



老人ホームの
選び方ガイド

Feature 特集

チャペル探訪 — その1 (全3回) —

学長

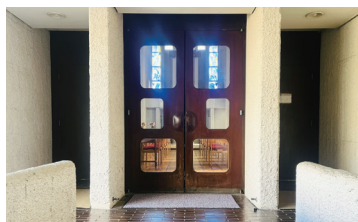
石居 基夫

ルーテル学院大学の主だった建築物は、1969年に村野藤吾の設計によって建てられました。個々の建物ということではなく、キャンパス全体が神の民の家、祈りの場として総合的にデザインされた画期的な建築群です。

キャンパスの中心に配置されているのがチャペルです。現在の東門から入ると、まずその視線に直線と曲線をまとしてそびえ

るその姿が飛び込んできます。内部に入るには、左手に建物を見ながら回り込むように西側に位置する玄関ホールに導かれ、その奥に、橋を渡るようにしてチャペル入り口に立つのです。

神のことばによって大地から呼び出され、引き上げられたようなつくりは、自然と人間が神の声を聞くものとしての一つの調和した世界にあることを思わせるのです。



キャンパスクリスマス報告

総合人間学部人間福祉心理学科 2年
白石 達彦

2024年12月11日(水)、チャペルにて毎年恒例のキャンパスクリスマスが開催されました。今年は「すべての人にクリスマスの喜びを！」と題し、クリスマス礼拝と祝会の二部構成で行われました。礼拝では、河田優チャプレンによる説教に加え、聖話(朗読劇)や聖歌隊の賛美、ハンドベル演奏が花を添えました。祝会では、クリスマスソングのバンド演奏に合わせて歌って踊り、皆でクリスマスの喜びを分かち合いました。



神学校校長就任式が行われました

2024年12月10日(火)、本学チャペルにて、宮本新校長の新校長就任式が平岡仁子チャプレンの司式、石居基夫学長の説教により執り行われました。

就任にあたっての誓約は、滝田浩之日本福音ルーテル教会副議長と江本真理日本ルーテル教団議長の立ち合いの下で行われました。



※宮本校長の所信表明は次号での掲載を予定しています。

日本ルーテル神学校 退任教員からのご挨拶

様々な祈りに支えられて

立山 忠浩



定年を迎え、現任での教員の任を終えることになりました。教員の重要な任務の一つが学生たちの教育です。神学を教え、牧師として立つための指導をすることです。簡単なことではありません。自身が神学生時代に学んだ神学や神学者の思想が、40年を経た今「古い」ものであることを知りつつも、自分自身が掴んだことを基盤にして教鞭を執ってきました。いや、単に過去の神学を並べるのではなく、またそれを無視するのではなく、現代に活かされることを願ったことでした。実に小さな貢献でしたが、これが精一杯でした。

頭と思いを悩ましたことは神学生の面接でした。入学試験もそこに含まれることです。面接は学生や入学希望者たちの進路を判定することですから、その人たちの人生を大きく左右することにもつながります。教会の使命を託された者として、面接に臨む学生や受験者の人格を尊重しながら、また推薦する出身教会の熱い思いを汲み取りながら可否の判定をすることは、容易なことではありません。最後は祈りしかありませんでした。

これからは皆様と同じ立場で神学校のために祈りを献げたいと思います。ありがとうございました。

励まし合って

齋藤 衛



1998年4月、北見ルーテル教会を離れ東京ルーテルセンター教会の招聘を受けて上京しました。と同時に神学校教員の働きに就き、以来27年間二足のわらじを履き続けてきました。主の御支えと教会の理解とに感謝いたします。着任して数年後、大学院で学ぶことになりました。つまり三足のわらじを履いたことになり、とうに私の力を超えていました。求めに応える難しさをおぼえた時でした。そんな悩ましさを抱えた牧師が、神学生と一緒にその悩ましさや難しさを教室で分かち合い、励まし合った時間であったかと思ひます。知らぬうちに豊同の伴を受けていたようなものです。学生諸君に感謝です。ちょうどこの頃が、実習指導の役割を捉え直した時でもありました。

担当した教会実習・宣教研修は総合的な体験学習です。神学生は教会での指導牧師の働きをつぶさに見て学びます。実習教会での体験と出会いは貴重な宝です。クラスでは振り返りを通してその体験の意味を考え、体験を経験にしてゆきます。神学生たちには喜びもあり失敗もあり、心は揺れることです。意欲を失わないよう言葉をかけてきたつもりです。決して十分ではなかったと思いますが、私なりに教職養成の召命をここに果たせたこと、主に感謝いたします。

三鷹の思い出

平岡 仁子



初めて三鷹の地を訪れた日から、半世紀近くが立ちました。妊娠7ヶ月の身重で大学のチャペルの説教台の前に立ったあの日、生後6ヶ月の娘と主人の3人で市ヶ谷から赤いスバルで通学した日々。そして長い長いブランクを経て復学し、神学校を卒業したあの日、大学・神学校のチャプレンとして働いた5年間、神学校で礼拝学を教えるため大学生たちに見送られ成田を旅だったあの日—みんな飛行機が見えなくなるまで、手を振ってくれたと聞きました。そして2008年、神学校専任教員となり、更に最後の2年間は大学・神学校チャプレンチームの一員として再び、初めの働きに戻るとはなんととも不思議な巡り合わせとなりました。

振り返れば、29年間の牧師生活の内28年間はルーテル学院との関わりの中でありました。私のお腹の中で講義を聞いた娘は立派に巣立ち、そして夫平岡は、彼にとっても思い出深い学院のチャペルで葬儀を執り行っていたとき、天に旅立ちました。大学の正面玄関で夫が娘を抱えている写真は若かった当時を思い出させます。

人生の痛みも苦しみも、喜びも感謝も、私にたくさんの経験を与えてくれた三鷹は、私の記憶の中に生き続けることでしょう。

編集後記

卒業に向けて

総合人間学部教授 加藤 純

本学では、3月7日(金)に卒業式が挙行されます。今春の卒業生の多くはコロナウイルスの影響が続く2021年度に入学されました。大学の教育体制の変化が重なり影響もあったでしょう。それでも前を向いて進んで来た学生・院生・神学校生に敬意を表したいと思います。学生達の歩みを支えてくださった皆様に感謝申し上げます。